



講演会

「抗老化医学の現在と将来的展望」

リュック・モンタニエ教授
ジェラルール・サラマ医師

2011年6月21日(火) 18時開演
日仏会館一階ホール

医療の質の向上と、寿命の伸びに伴い、老化は私達の最大関心事になった。老化とは、生物全てに共通の現象で、様々な要因と、酸化ストレスなどの生物学的反応に由来する、自然の複雑なプロセスである。不安定分子が鉄錆の発生に関与しているように、酸化分子は人体の組織や細胞のメカニズムに破壊的影響を及ぼす。がんやアルツハイマーといった慢性疾患の発現に、酸化ストレスに関連する要素の含有量の高さが直接影響していることは、数多くの科学研究に示されている。

モンタニエ教授とサラマ医師は老化の偉大な専門家であり、この機会に、この分野における最新の研究成果を私達と分かち合ってくれる。

リュック・モンタニエ教授は、2008年にノーベル生理学・医学賞を受賞した。彼の名前とエイズウイルスの発見は切り離せないものである。モンタニエ教授は、がん、アルツハイマー、エイズ、慢性疾患の撲滅のために、現在も研究を続けている。また、これらの疾患の予防と治療のために、西洋的伝統医学に代わる自然医療の探求も継続しており、予防、自然防御の強化を念頭に、新しい領域や技術を探っている。

ジェラルール・サラマ医師は産婦人科医であり、1980年からパリに拠点を置き、現在はアメリカンホスピタルに勤務している。自らの科学知識をできるだけ多くの人達と分かち合いたいと、テレビ、ラジオ、新聞等、多くのメディアに関わっていて、女らしさについての数々の著作や記事がある。最新作の「抗老化医学、未来の医学」においては、さまざまな老化のメカニズムに注目し、婦人科医としての経験を予防医学にも生かしている。サラマ医師によると、抗老化医学は、がん、心血管疾患、アルツハイマー、糖尿病といった、かなりな数の現代の慢性疾患を予防しうる。

本講演会は、在日フランス大使館科学技術部と日仏会館フランス事務所の共催のもと、在日フランス商工会議所の協力を得て、フランス語で行われる(日本語の同時通訳付)。

参加ご希望の方は、件名に講演タイトルを明記の上、日仏会館(contact@mfj.gr.jp)までメールでお申し込み下さい。

会場：日仏会館 〒153-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25 <http://www.mfj.gr.jp/>